

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目	原因・理由文における日中対照の 定量的分析 —カラ・ノデを中心に—
氏 名	湯 明显

論 文 内 容 の 要 旨

日本語の原因・理由を表す代表的な形式には、カラ・ノデがある。それらは中国語で“因为 p, 所以 q”で表すのが普通だが、実際は文法的に、必ずしもその通りではない。

(1) 昼間は家にいないので、救護班のものはその顔を滅多に見ることがない。

井伏鱒二『黒い雨』

因为白天不在家里，所以救护班的人很难见到他。 柯毅文、颜景镐译《黑雨》

(2) アナウンスがありますから、気を付けてください。

村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』

因为有广播通知，请留意听。 林少华译《舞！舞！舞！》

(3) 彼女も男というものを憎んでいましたから、私の愛に応えてくれました。

赤川次郎『三毛猫ホームズの追跡』

她恨男人，所以接受我的爱。 叶蕙译《三色猫追踪》

(4) でもあの子がいなくなってしまったので、ここに持って来ました。

村上春樹『1Q84 Book1』

那孩子不见了，我就把它拿到这里来。 施小炜译《1Q84 Book1》

(5) 私はとくべつ扱いだから今こうして自由にしてるけれど。

村上春樹『ノルウェイの森』

我受特殊优待，现在才这样自由自在。 林少华译《挪威的森林》

因果関係を表す接続辞“因为”と“所以”は、それぞれ単独で用いられる場合も、共起して用いられる場合もある。そのほかに、因果関係と継起関係を共に表す“就”、“才”などの接続辞を用いることも少なくない。

蓮沼など(2001)及び前田(2009)などの先行研究を踏まえて、本稿では、日本語のカ

ラ・ノデで表す因果複文を原因理由を表すカラⅠ・ノデⅠ文と、根拠を表すカラⅡ・ノデⅡ文の2種類に分けて議論する。更に、カラⅠ・ノデⅠを「事態の原因」、「行為の理由」に、カラⅡ・ノデⅡを「判断の根拠」、「発言・態度の根拠」に分けることにする。それぞれの特徴をまとめると、次のようになる。

	カラⅠ・ノデⅠ		カラⅡ・ノデⅡ	
	原因	理由	判断	態度
接続形式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従属節の主語+が ・ 主節で状態を表す表現が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従属節の主語+は ・ 主節で話し手の意志や意志的動作を表す表現が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主節に判断を表すモダリティが使われる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主節に話し手の命令、依頼、勧誘、質問、働きかけ表現、意志、希望などの表現が使われる
「どうして？」 質問文について	どうしてそうしたのですか？		どうしてそう判断できるのですか？	
構文的変換	・ PカラQ ⇒ QノハPカラダ		<ul style="list-style-type: none"> ・ PカラQ (判断) ⇒ QカラP (原因・理由) ・ PカラQ+「わかる、判断する…」 ・ PカラQ ⇒ Q+と「判断する、わかる…」ノハPカラダ 	
意味用法	事態P、Qの因果関係を表す	なぜそのような動作を行うのかを表す	なぜ話し手がそのように判断するのかを表す	なぜ話し手がそのような発言をしたり、そのような態度をとるのかを表す

一方、邢福義(2001)、張斌(2010)などによると、中国語の因果複文は「説明性因果複文」と「推論性因果複文」の2種類に分けることができる。そのうち、「説明因果複

文」は日本語のカラ I・ノデ I 文に近い表現である、「推論性因果複文」は日本語のカラ II・ノデ II 文に近い表現である。中国語の「説明性因果複文」と「推論性因果複文」のそれぞれの特徴については、次のようにまとめられる。

	説明性因果複文	推論性因果複文
代表表現	因为 p, 所以 q	既然 p, 就 q
対応する日本語	カラ I・ノデ I 原因・理由文	カラ I・ノデ II 原因・理由文
意味	因果関係の説明	推論
前後節特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・前後節の関係：偶然、必然 ・前節の情報：共有、非共有 ・後節の内容：客観性 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後節の関係：必然 ・前節の情報：共有 ・後節の内容：話し手の観 点や考え、主観性
語順	因—果、果—因	因—果

そこで、本稿では、21 部の日本の小説とその中国語訳について、原因・理由を表すカラ・ノデの対訳例を整理し、それぞれの対訳傾向から、中国人（中国語訳者）から見た日本語のカラ・ノデは、一体どのような中国語に対応するのかを考察し、中国語有標因果複文と日本語カラ・ノデ原因理由文の対応モデルの構築を目指す。

対訳例の比較を通して、日本語のカラ・ノデ因果複文と中国語の因果複文との対応傾向を以下のようにまとめる。

- ・「事態の原因」の場合、カラが“因为”と強いつながりを持っている一方、ノデは“由于”、“所以”と強いつながりを持っていると言える。
 カラ：因为>因为所以>由于=所以>因此
 ノデ：由于>所以>因为所以>因为>因此
- ・「行為の理由」の場合、カラもノデも“就”、“所以”と強いつながりを持っているが、ノデは“只好”で表す場合も多い。
 カラ：就>所以>因此
 ノデ：就>所以>于是就>只好>（+）就
- ・「判断の根拠」の場合、カラが“因为”、“所以”と強いつながりを持った一方、ノデは“所以”、“由于”と強いつながりを持っていると言える。また、カラとノデのどちらも“（+）才”で表す場合がある。
 カラ：因为>所以>因为所以=因此>（+）才

ノデ：所以>由于>因为>因为所以> (+) 才

- ・「発言・態度の根拠」の場合、カラが“所以”、“因为”、“就”と強いつながりを持っている一方、ノデと強いつながりを持つ対訳形式はないと言える。

カラ：所以>因为=就>因为所以

ノデ：所以=因为>因为所以=就= (+) 只好

また、今まで客観的因果を表すとされてきた中国語の接続辞“因为”は、客観的な因果関係だけではなく、主観的な因果関係も表すことが分かった。本稿の研究を通して、“因为”は、より客観的な因果関係を表すノデより、より主観的な因果関係を表すカラと馴染むことが分かった。そのかわり、“因为”より正式で書き言葉的な形式とされている“由于”は、より客観的な因果関係を表すノデと馴染む。つまり、両者の違いは話し言葉と書き言葉の差だけではなく、“因为”の方が“由于”よりやや主観性を持っていると言える。

今まで客観的因果を表すとされてきた中国語の接続辞“所以”は、意味的機能より、構文的機能を果たしている。そのため、客観的な因果複文でも主観的な因果複文でも多く用いられる。日中対応の新たな立場から、中国語の因果複文の代表的標識である接続辞の主観性・客観性を分析すると、由于→因为→所以→就（客観→主観）の順になる。